

教科名	国語	単位数	2単位	担当者 小林 志保 瀧尻 幸一
科目名	現代の国語	年次	1	
使用教科書 副教材等	東京書籍 精選現代の国語 数研出版 国語便覧 数研出版 意味から学ぶ頻出漢字3000			
1 学習の到達目標（育成すべき資質・能力）				
<p>（知識・技能）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>（思考力判断力表現力等）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>（学びに向かう力・人間性等）言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
2 学習の評価（評価基準と評価方法）				
観点	a. 知識及び技能	b. 思考力,判断力,表現力等	c. 主体的に学習に取り組む態度	
観 点 の 趣 旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
主 た る 評 価 方 法	小テスト（週1回） 考査（年3回） 提出物（原則单元ごと） 授業時の観察	提出物（单元毎） 考査（年3回） ※「読む」領域 提出物（单元ごと）※「書く」領域 ※「聞く・話す」領域はワークシート 授業時の観察	提出物（单元ごと振り返り／課題） 授業時の観察 ※单元毎の振り返り 10% ※応用的課題の提出 10%	
占 め る 割 合	35%	45%	20%	
3 学習の目標と振り返り				
	《目 標》 ～何ができるようになりたいか具体的に～		《振り返り》 ～学習の振り返りと今後の課題～	
前 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】	
後 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】	

4 学習の内容						
学期	学習内容 (単元)	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
		a	b	c		
前	「まだ知らない自分に出会う」(補助教材「届く言葉」) 《読む》	◎	○		構造と内容を把握する	提出物
	本を紹介する《聞く・話す》	○	◎		本を紹介する ※図書館の利用法	提出物
	わかりやすい説明をする 《聞く・話す》	○	◎		目的や相手に合ったわかりやすい説明をする	提出物
	手順を整理して正確に伝える 《書く》	○	◎	○	情報を整理し、表現を検討して伝える	提出物
	今ここに在る無数の未知 《読む》	◎	○		構造と内容を把握する	考査
	発想を広げて課題を見つける 《聞く・話す》	○	◎	○	発想を広げてアイデアを整理し、的確に伝える	記録用紙
	新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる《書く》	○	◎	○	読んだ情報から問いを作り、構成を工夫して意見をまとめる	提出物
	言葉は世界を切り分ける 《読む》	◎	○		他言語と比較することで言葉の意味の在り方を理解し、言葉に関心を持って言語生活を豊かにする	考査
後	グラフや写真の読み取り方 《読む》	◎	○		グラフや写真の読み方を理解し、情報を適切に読み取る	記録用紙
	調べた情報を説明資料にまとめる《書く》	○	◎		論点を整理して論証し、レポートの形式で書く	提出物
	文章を読み比べるために 《読む》	◎	○		文章の読み比べ方を学び、比較する方法を理解する	提出物、記録用紙
	情報を整理しながら話し合う 《聞く・話す》	○	◎	○	情報を整理しながら話し合う	記録用紙
	異なる主張の文を読み比べて自分の意見を書く《書く》	○	◎	○	読み比べて考えを明確にし、伝わりやすい構成で書く	提出物
	探究したことを発信する 《聞く・話す》	○	◎	○	話し合いの仕方を工夫し、考えを深める	提出物
	人工知能はなぜ椅子に座れないのか《読む》				人工知能に関して人間と比較しながら論じた評論を読み、両者の違いについて考える	考査
	論証してレポートを書く 《書く》	○	◎	○	情報の信頼性を吟味し、伝える相手や目的に応じてまとめる	提出物、記録用紙